

## 船舶事故調査報告書

平成28年11月24日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司 邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本 美奈

事故種類	衝突（海洋生物）
発生日時	平成28年2月6日 08時50分ごろ
発生場所	東京都伊豆大島北西方沖 伊豆大島灯台から真方位319° 8.1海里（M）付近 （概位 北緯34° 54.0′ 東経139° 15.9′）
事故の概要	旅客船セブンアイランド <sup>とも</sup> 友は、南東進中、海洋生物に衝突した。 セブンアイランド友は、船首水中翼に脱落等を生じた。
事故調査の経過	平成28年2月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 セブンアイランド友、164トン 131269、東海汽船株式会社（A社） 23.99m（Lr）×8.53m×2.59m、軽合金 ガスタービン機関2基、5,588kW（合計）、平成元年4月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 48歳 三級海技士（航海） 免許年月日 平成3年12月4日 免状交付年月日 平成23年10月21日 免状有効期間満了日 平成28年12月3日
死傷者等	なし
損傷	船首水中翼に脱落等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風速 約6m/s、視界 良好 海象：波高 約1m
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、旅客69人を乗せ、平成28年2月6日08時31分ごろ、伊豆大島岡田港に向けて静岡県伊東市伊東港を出港し、翼走航行の翼深度約2m、約42ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で南東進した。 船長は、08時43分ごろ、速力を約35knとし、船内マイクにより、シートベルトの着用、鯨の出現の多い海域に入ったので減速したことなどの船内放送の後、乗組員3人に見張りをさせ、他の1人に船内巡視を行わせた。

	<p>本船は、船長が、08時50分ごろ、前路約15mに2頭の海洋生物が浮上してきたのを発見して緊急停止操作を行ったものの、そのうちの1頭に衝突した。</p> <p>船長は、本事故後、旅客に負傷者はいないことを確認したが、船体が損傷し、船内電源が喪失して自力航行ができなかったため、海上保安庁に本事故発生の通報及び救助要請を行った。</p> <p>本船の旅客全員は巡視船等に救助され、本船は伊東港にえい航された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>船長は、緊急停止操作により約25knの速力で衝突したと思った。</p> <p>A社は、伊豆大島から約4～12Mの範囲を減速する海域とし、当該海域では約35knの速力とするように定めていた。</p> <p>本船の海上試運転成績表によれば、翼走航行中、約45knの速力で緊急停止操作を行うと、船体停止までの所要時間が約23秒であり、航走距離が166mであった。また、約46knの速力で舵角75°として旋回したとき、最大縦距が約300～320m、最大横距が約530～560mであった。</p> <p>本船にアンダーウォータースピーカー（鯨類の忌避する音声を水中に発射する装置）は装備されていなかった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	なし なし なし <p>本船は、伊豆大島北西方沖において、翼走航行して南東進中、海洋生物が海中から前路至近に浮上してきたことから、回避できずに海洋生物と衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、伊豆大島北西方沖において、翼走航行して南東進中、海洋生物が海中から前路至近に浮上してきたため、回避できずに海洋生物と衝突したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>A社は、本事故を踏まえ、減速する海域では約35knの速力を励行することを再確認し、同海域以外で鯨類が発見された場合であってもその場所から半径約5Mを発見時から5日間約35knの速力とすることなどを所属各船宛に文書で周知した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鯨類との衝突を防止するためのアンダーウォータースピーカー等を設置することが望ましい。</li> </ul>

付図1 事故発生場所概略図

